

# I 受賞者業績

## 「第41回青森県農業経営研究協会賞」受賞者

- 氏名 くろ たき あきら  
黒 滝 彰
- 年齢 昭和37年生まれ・60歳
- 住所 つがる市稲垣町
- 経営内容（令和3年）



農業労働力	家族 常時雇用 パート	3人（本人、妻、長男） 2人 7人
経営耕地面積	水田 転作田	6,100 a（うち借地 4,380 a） 1,540 a（うち借地 590 a）
主な作付品目等	主食用米 飼料用米 大豆 にんにく ブロッコリー	330 a 5,770 a 1,200 a 300 a 40 a

### 【業績】

飼料用米を主体とした経営の安定化とにんにく加工品の多角的な販売による高収益化を実現

# 1 経営の発展経過と概要

## (1) 就農の経緯

昭和 56 年 3 月 高等学校を卒業後、県外企業に就職

昭和 62 年 4 月 就農

## (2) 発展の経過

黒滝家はもともと稲作主体の農家であったが、黒滝氏の就農を機にトマトを導入し、稲作部門は父親、野菜部門は黒滝氏と役割分担しながら農業経営の拡大に取り組み、就農時 8 ha（自作地 6 ha）であった経営面積は、令和 3 年には 76.4ha（自作地 26.7ha）となっている。農地取得と借地により規模拡大しながら作付品目も拡充させており、平成 2 年には、トマトより高い収益性が望める花き（ユリ、トルコギキョウ等）を導入するなど、稲作と施設園芸の複合経営を長く営んできた。

平成 22 年、米の生産者概算金が大幅に下落したことを受け、翌年から、主食用米主体から収入がある程度計算できる飼料用米主体に切り替えた。

また、平成 23 年に後継者の就農を受け、冬期間にも農作業ができるにんにくを導入した。平成 25 年には下位等級品に付加価値を付けるため加工品づくりを開始し、さらに平成 27 年、土地利用型の転作作物として長年作付けしていた小麦から、より生産性の高い大豆に転換を図った。

平成 29 年 1 月、大豆、にんにく、加工部門を法人化し、販売力の強化と従業員の福利厚生に注力してきた。

〈表 1〉主な取り組み経過

時 期	主な出来事	主な品目等
昭和 56 年	高校卒業後、県外へ就職	
62 年	就農（24 才）	水稻 トマトを導入
平成 2 年		花き（ユリ、トルコギキョウ等）を導入
23 年	長男就農	主食用米主体から飼料用米主体へ転換 にんにくを導入
25 年		加工品づくりを開始
27 年		小麦から大豆へ転換
29 年	「株式会社黒滝農園」設立	大豆、にんにく、加工部門を法人化

### (3) 経営の概要

令和3年の主な労働力は、家族労働力3人と常時雇用2人、パート7人となっている。また、田植えや稲刈り、にんにくの収穫作業などは臨時雇用を活用している。

個人と法人を合わせた経営内容は、水稲61ha（主食用米3.3ha、飼料用米57.7ha）、大豆12ha、にんにく3ha、ブロッコリー0.4haに加え、にんにく加工があり、粗収益は1億2,098万円、粗収益から経費等を差し引いた所得は、2,630万円（農業経営基盤強化準備金、専従者給与控除前の金額）となっている。

〈表2〉家族と労働力

(令和5年3月現在・単位：歳、日)

氏名	続柄	年齢	年間農業 従事日数	年間兼業 従事日数	役割分担
黒滝 彰	本人	60	250	0	経営全般
	妻		250	0	水稲、大豆、野菜、加工
	長男		250	0	水稲、大豆、野菜

注) 常時雇用2人（男性／30代・50代）

パート7人（男性4人／20～40代、女性3人／30～60代）



〈表3〉 経営耕地面積

(令和3年・単位：a)

地 目	面 積			備 考
	所 有 地	借 入 地	計	
水 田	1,720	4,380	6,100	
転 作 田	950	590	1,540	
計	2,670	4,970	7,640	

〈表4〉 主な農作物の生産・販売状況

① 農産物の実績

(令和3年度・単位：a、kg、円)

作物名	作付面積	数 量		仕向け内容		
		10 a 当たり 収量	総量	販 売		
				数量	単価	販売額
主食用米	330	540	17,820	6,600	■	■
飼料用米	5,770	883	509,708	505,708	■	■
大豆	1,200	190	22,830	22,830	■	■
にんにく	300	600	18,000	11,998	■	■
ブロッコリー	40	686	2,744	2,729	■	■
計	7,640		571,102	549,865		■

(令和3年度・単位：a、kg、円)

作物名	仕向け内容			
	経 営		家 計	
	数量	金額	数量	金額
主食用米	10,620	■	600	■
飼料用米	4,000	■		
大豆				
にんにく	6,000	■	2	■
ブロッコリー			15	■
計	20,620	■	617	■

注1) 単価の1円未満は四捨五入

注2) 経営の主食用米は借地料、飼料用米は種子、にんにくは種子と加工品原料に仕向

② 加工品の実績

(令和3年度・単位：個、円)

加工品	販売			販売先・ 販売方法等
	数量	単価	販売額	
黒にんにく	7,200	869	■	地元直売所 量販店 インターネット通販 ふるさと納税返礼品 等
黒にんにくペースト	500	800	■	
にんにく塩糎	1,120	926	■	
にんにく塩糎（辛味）	500	1,019	■	
にんにく乾燥スライス	1,000	463	■	
にんにく乾燥粉末	600	459	■	
計	10,920		■	

注) 単価の1円未満は四捨五入



「黒滝農園にんにくセット」



青森県特産品コンクール入賞商品等  
「(公社)青森県物産振興協会会長賞」  
にんにく塩糎(辛味) / 写真右

## 2 経営の特徴

### (1) 水稲・大豆の規模拡大

黒滝氏が経営を営むつがる市稲垣町は、水田を貸したい人も多いが規模拡大志向の農家も多く、地代が比較的高い状況にある。このような中、水田農業の経営安定化を目指して、他の担い手が敬遠する耕作条件が悪いほ場も積極的に集積し、規模拡大している。このため、農道や用排水路の補修、明きょ設置による排水改善などの耕作条件の整備に努めてきた。

また、平成23年以降、米価変動の影響を緩和するため、主食用米から飼料用米へシフトし、令和3年には、水稲の作付面積の95%が飼料用米となっている。

さらに、作業の効率化・省力化につながる直播栽培など新たな技術の導入も進めてきた。直播栽培については、湛水・乾田など種々の技術について地域の条件に合うかどうか試行錯誤し、収量性や経営全体に及ぼす影響など慎重に見極めた上で、令和元年からは、本格的に不耕起V溝直播機を用いた乾田直播栽培に取り組んでいる。

このほか、土地利用型転作作物として、平成27年からは小麦から労働生産性が高い大豆に転換し、水田農業の規模拡大につなげている。

### (2) 水田で安定生産が可能な高収益作物の導入

水田の転作作物としてトマトの導入を皮切りに、花きやにんにく、大豆の前作にはブロッコリーなど地域の気象や土地条件に適した高収益作物を模索してきたが、この中で機械化が可能なこと、稲作と労働競合が少ないこと、冬期間にも作業があることなどからにんにくの生産拡大を図ってきた。

〈表5〉経営の推移

(単位：円)

区 分		令和元年	令和2年	令和3年
粗収益	販売額	■	■	■
	家事消費	■	■	■
	雑収入	■	■	■
	棚卸し	■	■	■
	計	■	■	■
所 得		■	■	■

注1) 雑収入は水田活用の直接支払交付金等

注2) 所得は農業経営基盤強化準備金、専従者給与控除前の金額



### (3) にんにくを使った新商品の開発と販路の開拓・拡大

加工用として市場出荷したにんにくの価格が安かったことから、平成 25 年頃から、下位等級品の有利販売に向けて新商品の開発に取り組んだ。

県の「ABC（あおり食品ビジネスチャレンジ）相談会」に参加し、商品の中身、パッケージ、価格等いろいろな視点から専門家のアドバイスを受け、短期間で商品化にこぎつけ、主力加工品となっている「黒にんにく」や「にんにく塩糍」等を製造・販売している。

販売面では、地元直売所や量販店、インターネットを活用した通信販売など販路の拡大を図っており、インターネット通販については、首都圏に在住する長女の知見や力を借りるほか、先行して取り組んでいる近所の方から教えを受けて展開してきた。

また、自ら首都圏の量販店に交渉・売り込みに行くなど、販路の開拓にも積極的に取り組んでいるほか、つがる市のふるさと納税返礼品として採用されるなど、多様な販売ルートを確立している。

### (4) 法人設立による販売力強化と従業員の安定雇用

平成 29 年 1 月、大豆とにんにくの生産と加工部門を担う「株式会社黒滝農園」を設立し、本人を除く従業員 2 人、臨時雇用 7 人（※個人経営の雇用を兼ねる。）で経営している。法人化したことで取引上の信用力が高まり、イトーヨーカドーなど首都圏の量販店との契約やアマゾン、楽天など大手通販サイトでの全国販売が可能になった。

また、冬期間にも作業ができる加工品づくりに取り組むことで通年雇用を実現するとともに、労働保険など社会保障制度加入により、従業員が安心して働ける環境づくりに努めている。



にんにくの加工品づくり

〈表6〉農機具の所有状況

(単位：台、円)

No.	種 類	規格・能力	台数	取得年	取得価額
1	トラクター	95・75・75・60・60PS	5 (リース)	S63 H7 H23 H26	12,182,380
2	田植機	8条植	2	H29 R2	5,379,630
3	コンバイン	6条刈、7条刈	2 (リース)	H27 R3	6,818,182
4	ブームスプレヤー	500 <sup>リットル</sup>	1	H24	4,000,000
5	乾燥機	70・70・50石	3	H25 H31	2,883,491
6	籾摺・選別・精米機		一式	H25 H30	4,994,376
7	大豆播種機		1	R3	2,970,000
8	大豆コンバイン	40PS	1 (リース)		
9	大豆乾燥機	80石	1	H29	4,740,000
10	にんにく植付機		2	H29 R1	2,759,000
11	にんにく掘取機		2	H26 H30	1,114,000
12	にんにくほぐし機		1	R1	1,460,000
13	黒にんにく製造機		1	H30	7,700,000
14	フォークリフト	2 t	2	H24 H28	2,895,000
15	トラック	ダンプ、積載車	4	H19 H26 H29 R1	4,940,595
16	軽貨物車	トラック、バン	2、1	H28	2,998,543

〈表7〉施設・建物の所有状況

(単位：㎡、円)

No.	種 類	構造	規模	取得年	取得価額
1	作業場	木造	132	S53	5,000,000
2	納屋	木造	66	H15	1,000,000
3	作業小屋	木造	132	H29	800,000
4	格納庫	木造	165	H24	1,714,285
5	加工場	木造	50	H27	4,629,630
6	ハウス小屋	パイプ	264	H20	3,204,477
7	ビニールハウス	パイプ	3,960 (20棟)	S62~H20	



〈表 8〉 品目別経営収支

(令和 3 年・単位：円)

費 目	経営全体	品 目 別		
		主食用米	飼料用米	大豆
粗収益（交付金を含む）				
経 営 費				
種苗費				
肥料費				
農薬費				
動力光熱費				
諸材料費				
農具費				
修繕費				
賃借料				
支払地代				
作業委託料				
作業用衣料費				
土地改良水利費				
減価償却費（建物）				
減価償却費（機械）				
減価償却費（車両）				
雇用費				
法定福利費				
福利厚生費				
荷造り運賃手数料				
委託販売手数料				
旅費交通費				
接待交際費				
事務消耗品費				
通信費				
新聞図書費				
共済掛金				
損害保険料				
租税公課				
支払手数料				
利子割引料				
雑費				
役員報酬				
所 得				

費 目	品 目 別			
	にんにく	ブロッコリー	加工品	その他
粗収益（交付金を含む）				
経 営 費				
種苗費				
肥料費				
農薬費				
動力光熱費				
諸材料費				
農具費				
修繕費				
賃借料				
支払地代				
作業委託料				
作業用衣料費				
土地改良水利費				
減価償却費（建物）				
減価償却費（機械）				
減価償却費（車両）				
雇用費				
法定福利費				
福利厚生費				
荷造り運賃手数料				
委託販売手数料				
旅費交通費				
接待交際費				
事務消耗品費				
通信費				
新聞図書費				
共済掛金				
損害保険料				
租税公課				
支払手数料				
利子割引料				
雑費				
役員報酬				
所 得				

注1) 役員報酬は役員2人分（本人と長男）

注2) その他の内訳：

太陽光発電補助金、農の雇用事業助成金、経営継続補助金等、品目ごとに振り分けることが困難な収入の計

### 3 地域農業への貢献

農業次世代人材投資事業（経営開始型）等を活用する就農希望者から研修受入の相談があり、これまでに4名の新規就農者（いずれもつがる市出身のUターンや地元大学生）を受け入れている。

研修では、地域の振興品目であるにんにく、ねぎ及びブロッコリーなど野菜の栽培方法や営農計画の立て方の指導、就農に必要な農地や機械を貸し出す等の支援を行い、4名のうち3名は独立就農し、1名は雇用で就農している。

このほか、県の営農大学校生の農家実習を長年受け入れ、作業を通して未来の担い手へ農業の魅力を伝えている。

### 4 今後の展望と課題

#### （1）未利用資源の活用

冬場の仕事づくりも含め大量に廃棄される籾殻をくん炭化し、野菜作付ほ場の土壌改良資材やりんご園地での融雪剤としての利用など、資源循環型農業に取り組むため製造施設建設や販売先確保等の準備を進めている。

#### （2）若者へ農業の魅力を伝承

つがる市では次世代の農業を担う者の育成や確保を目的に、平成28年に「つがる市就農研修生受入協議会」を設立し、つがる市へ住民票を異動し、新規就農を目指す者を対象に農業研修を実施している。黒滝氏も協議会の主要メンバーとして、今後、1人でも多くの若者が農業に魅力を持ってもらえるよう、スマートフォンなどデジタルを活用した新しい技術等についても積極的に導入し、『稼げる農業経営』を若い世代に伝えていきたいと考えている。

#### （3）農福連携の取組

農業分野での障がい者の就労機会の拡大と取組定着に向け、令和3年に障がい者と事業所指導員を対象に農作業体験を実施しており、その経験をもとに、令和4年から加工品のラベル貼りや、にんにくの種こぼし（りん球の分割）作業を2施設へ委託している。今後、農福連携の取組を地域に波及させ、労働力の確保と共生社会の実現につなげていきたいとしている。

### 5 主な資格・受賞歴

平成21年度 青森県農業経営士認定

令和元年度 青森県特産品コンクール「（公社）青森県物産振興協会会長賞」受賞  
※にんにく塩糀（辛味）

令和3年度 青森県攻めの農林水産業賞「奨励賞」受賞



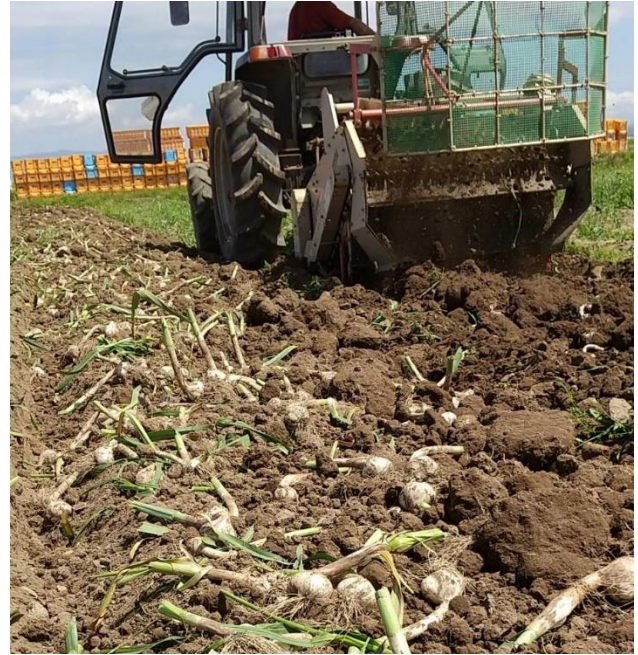
田植作業



飼料用米「ゆたかまる」の刈り取り



にんにくの植付作業



にんにくの掘取作業



農福連携の体験実習



「アグリフード EXPO 大阪 2020」 出展  
～長女と共に～



黒にんにく製造機